



農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員長 松永晋一
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市
農業委員会事務局
飯山市役所農林課内
電話：62-3111
(内線 261)
FAX：62-6221

17.3

No.223

市長と農業委員会との懇談会開催



2月28日、農業委員会からの提案、提言を中心として市長との懇談会を開催しました。

最初に新しい農業委員会体制について、農業委員と農地利用最適化推進委員の定数・選出区分・報酬、新体制移行へのスケジュール等に関する提案を行い、それに対して市長は、県内他市町村の現状を調査し、提案に沿った方向で進めて行きたいとの考えを示しました。

重点を置き回答をいただきます。

①農地情報公開システムを活用した農地パトロールの簡素化について、IT活用が進んでいるので現場で使用可能な端末等の整備を進めたい。

②新規参入の促進について、来年度から新規就農者の研修センターの立ち上げ、市単の上乗せ等も含め新規就農者の支援強化を進めたい。

③マーケティングについて、地域おこし協力隊員による首都圏のレストラン等での飯山産農産物の活用促進、道の駅千曲川直売所の増



設 市内各地でそばの栽培が進んでおり、手打ちそばと観光を合わせた取り組みを進めたい。

その後の意見交換では、飯山産米を高値で売る方法、県指定の伝統野菜を個人販売では「伝統野菜」という名称を使用できない現状の改善、飯山産そばの普及拡大等について、限られた時間の中でしたが活発に意見を交わすことができました。

農政対策委員会 小林喜代春

農産物の国内生産と遊休農地

2月7日・9日の両日、研修会に参加してきました。

まず、7日の研修会では、輸入の玄関口の港湾職員の方から、輸入食品の実態を写真や事例を入れて話していただきました。冒頭の「健康・安全を守る為に農業・家族農業が必要ですよ」の一言の意味が納得できました。

9日には、弘前市の事例として、「遊休農地の解消と農地を守るには地域の協力が必

要であり、地域の農業者中心の組織である農地活用支援隊を結成し、農業委員と共に活発に活動し、農業・農村の持続的な発展を目指します。」と誇りと情熱溢れるお話をいただきました。

両日の研修会に参加して、安全で安心して食べられる農産物は国内生産が必要ということを再確認し、遊休農地の活用について得たヒントをこれから活動に活かしていきたいと思えます。

情報委員会 酒井智恵子



飯山市農地賃借料情報

平成28年1月から12月までに公告(契約)された10aあたりの農地の賃借料は以下のとおりです。

単位：円・件

地区別	田				畑			
	最低	平均	最高	データ数	最低	平均	最高	データ数
飯山	-	-	-	-	1,000	2,600	5,000	17
秋津	-	-	-	-	-	-	-	-
木島	12,800	15,500	18,000	65	-	-	-	-
瑞穂	10,000	12,300	13,000	9	3,500	3,500	3,500	33
柳原	4,600	8,700	12,800	2	1,000	1,000	1,000	2
富倉	-	-	-	-	-	-	-	-
外様	12,800	12,800	12,800	26	1,000	1,800	3,000	7
常盤	12,800	13,100	15,000	67	1,000	3,000	5,000	33
常盤堤外	-	-	-	-	-	-	-	-
太田	4,200	12,100	20,000	125	-	-	-	-
岡山	9,000	13,900	17,000	18	4,000	4,700	5,000	3
国営開発農地(岡山)	-	-	-	-	5,000	5,000	5,000	3
市全体	4,200	13,200	20,000	312	1,000	3,100	5,000	98

- ・データ数は、集計に用いた件数を示す。
- ・集計結果を四捨五入し、100円単位としている。
- ・賃借料未記載の地区は、賃借料データがない、または、1件であった。
- ・「玄米60kg特A1等」は12,772円とした。
- ・使用貸借に係るデータ及び借地料が著しく低いものは、集計から除いた。

※地区・大字対照表

飯山	飯山、南町
秋津	静間、蓮
木島	山岸、其綿、吉、安田、天神堂、下木島、野坂田、木島、坂井、東小沼
瑞穂	瑞穂、瑞穂豊
柳原	旭、小佐原
富倉	富倉
外様	緑、中曾根、寿
常盤	照里、常盤、大池
太田	豊田、常郷
岡山	照岡、一山

※この情報は飯山市農業委員会窓口およびホームページでもご覧いただけます。